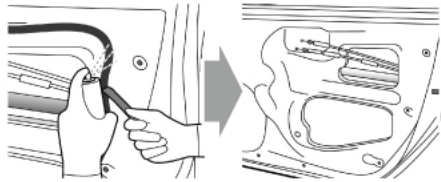


コレがあると便利! 面倒なプチル処理の作業をカンタンにできるアイテム

とにかくキレイにプチルゴムを処理したい!

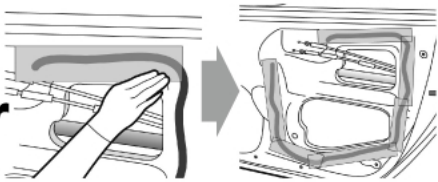
■ITEM No.2187 プチルクリーナーキット **別売**



プチルゴムがキレイに取り除ける

作業時間を短縮したい人にオススメ!

■ITEM No.2385 プチル処理テープ **別売**



プチルゴムの上から貼るだけ!!

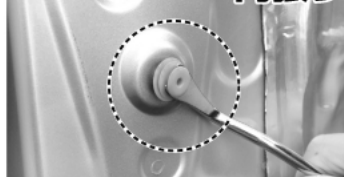
作業中のこんなアクシデントには…

アクシデント1 内張りを外すときに 内張りピンが壊れてしまったら…



別売で内張りピンの販売をしています。特殊な形状の場合は、カーディーラーで買い求めください。

アクシデント2 内張りを外すとドア側に 内張りピンが残ってしまったら…



内張りを外したときに、内張りピンだけがドア側に残ってしまっても、別売の内張りはがしを使えばカンタンに外せます。外したピンは内張りパネル側にもどせば使用できます。



別売
ITEM No.1423
内張りはがしDX

アクシデント3 内装パネルを外すときに パネルが壊れてしまったら…



万が一、内装パネルが破損してしまった場合は、カーディーラーで買い求めください。



内装パネルには意外な箇所につめがあるので、注意して取り外してください。

商品に関するお問い合わせはこちらまで
(8:30~17:30) 土・日・祝日を除く
0790-22-6262

エーモンオフィシャル
webサイト
<http://www.amon.co.jp>

エーモン工業株式会社
本社 兵庫県神崎郡福崎町南田原2077-1 TEL.0790-22-6262

音楽計画

SCHEME MUSIC

ITEM No.2198 デッドニングキット ドア基本モデル

取扱説明書

DEADENING

デッドニング

作業を始める前に

- この取扱説明書をよく読んでから作業してください。
- 取り付けの車種・取り付け状態により効果が異なる場合があります。
- イラストは取り付けイメージです。車種により取り付け方法は異なります。
- 安全のため、長袖・手袋を着用して作業してください。
- 本製品をカットして使用する場合は、切り口で手を切らないように注意してください。
- ドアサービホールや部品の先端は鋭利になっている場合があります。ケガのないように注意して作業してください。
- 確実に施工するために、気温が10℃以下の場合、ドライヤーなどで本製品と貼る箇所を十分に温めてから使用してください。
- 接着方法・接着位置によって接着強度が弱くなる場合があります。
- 粘着面に触れたり、再接着をしないでください。粘着力が低下します。
- 内張りピンなどに使用する穴には貼らないでください。
- 車種により内張りピンやビスの位置は異なります。充分注意して作業してください。
- パワーウィンドウ・ドアロックなどの機能を妨げるような箇所に貼り付けしないでください。
- 本製品は自動車用です。自動車以外には使用しないでください。
- 付属のオリジナルチェックCDは音楽計画のデッドニングキットドア基本モデル専用です。用途以外の使用はしないでください。
- 付属のオリジナルチェックCDは営利目的での使用・個人的な範囲を超える使用目的での複製を禁じます。
- ※本製品を改造して使用されたり、指定箇所以外で使用された場合の事故について、当社は一切責任を負いません。
- ※取り付け箇所周辺などの経年変化による劣化について、当社は一切責任を負いません。
- ※仕様および外観は予告なく変更する場合があります。

Start Up

施工の前に

作業をはじめる前に、付属のオリジナルチェックCDを再生してください。チェックCDの再生時、まず音量調整をおこないます。必ずトラック1から再生し、スピーカーの音が歪まない音量で再生してください。スピーカーの音が歪んだ状態で再生を続けると機器の破損につながりますので注意してください。ボリュームの上げすぎによるスピーカーの損傷について、当社は一切責任を負いません。

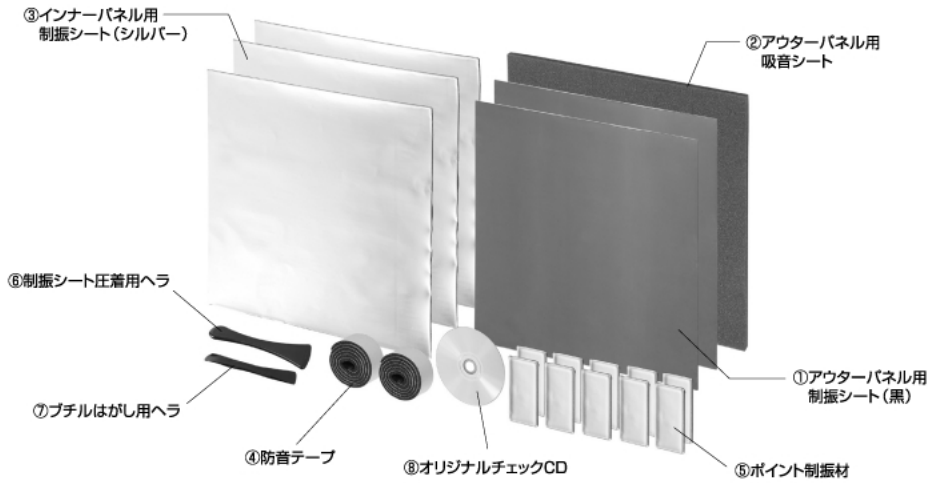
■トラック4~6にはスピーカー周辺のインナーパネルなどの振動・ビビリなどがチェックできる低音信号が収録されています。施工前の音やビビリの状況を確認してください。

■トラック7~9の音楽信号は音質チェックに便利なさまざまな楽器のサンプル音源が収録されています。施工前の音の響きや低音の深み・量感を確認してください。



作業手順にしたがって、ケガのないように作業してください。

セット内容

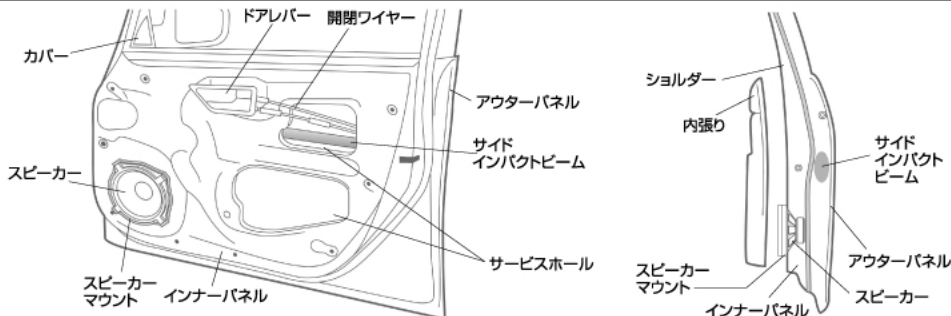


| 品名 | 材質 | サイズ | 入数 |
|----------------------|-------------------------------|-------------------------|----|
| ①アウターパネル用制振シート(黒) | 基材/特殊オレフィン系樹脂 粘着剤/アクリル系粘着剤 | 約500×450mm 厚さ 約1.5mm | 2 |
| ②アウターパネル用吸音シート | 基材/ウレタンフォーム 粘着剤/合成樹脂系粘着剤 | 約500×500mm 厚さ 約10mm | 1 |
| ③インナーパネル用制振シート(シルバー) | 基材/アルミニウム 粘着剤/特殊ゴム系粘着剤 | 約500×450mm 厚さ 約1.5mm | 3 |
| ④防音テープ | 基材/合成ゴム(EPDM) 粘着剤/合成樹脂系粘着剤 | 約30mm×1m 厚さ 約5mm | 2 |
| ⑤ポイント制振材 | 基材/アルミニウム 粘着剤/特殊ゴム系粘着剤 | 約50×100mm 厚さ 約2mm | 10 |
| ⑥制振シート圧着用ヘラ | ポリプロピレン | 全長 約170mm | 1 |
| ⑦プチルはがし用ヘラ | ポリアセタール | 全長 約160mm | 1 |
| ⑧オリジナルチェックCD | | | 1 |

作業前に用意するもの

- ウエス ●手袋 ●定規 ●ハサミ ●カッターナイフ ●油性マジック ●内張りはがし
 - ドライバー ●パーツクリーナー
- ※一部車両はスピーカーを外すときに電動ドリルやニッパーが必要です。

各部の名称

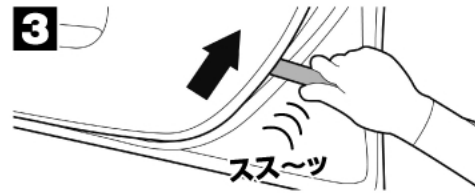


Step1 ドアの内張りを外す

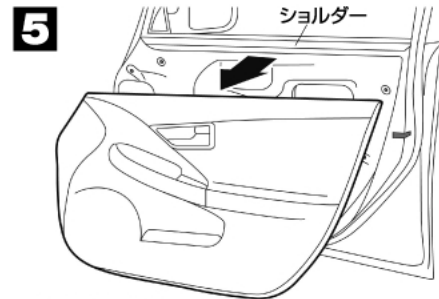
※車種により内張りの外し方は異なります。車種別の詳しい外し方は、ディーラーなどで確認してください。



内張りを固定しているネジを外す
窓ガラスを閉め、ドアノブ付近に隠しネジがある場合は外します。



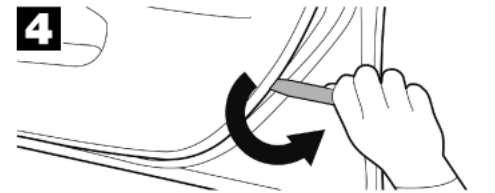
内張りピンを探す
内張りはがしをインナーパネルと内張り間にさし込み、スライドさせて「コツン」とあたる部分を探します。



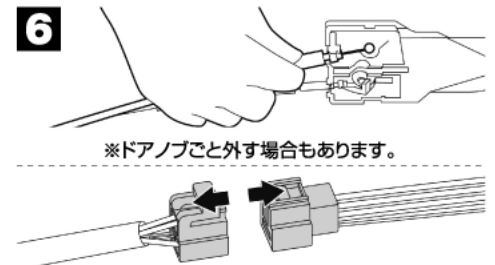
内張りを外す
隠しネジと内張りピンが全て外れていることを確認し、内張りをショルダーから外してください。



ドアミラー裏のカバーを外す
内張りをはがしてカバーを外してください。(装着されていない車種もあります。)

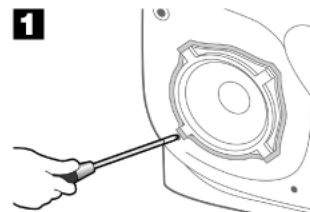


内張りピンを外す
「コツン」とあたる部分で内張りはがしを起こすように回転させ、内張りピンを外してください。※初めて内張りを外す場合、非常に固く外しにくい場合があります。



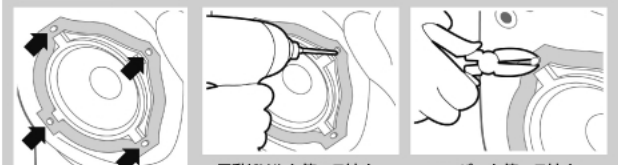
開閉ワイヤーや集中ドアロックのカブラーなどを外す
ドアの開閉ワイヤーや集中ドアロックのカブラーなどを外してください。

Step2 スピーカーを外す



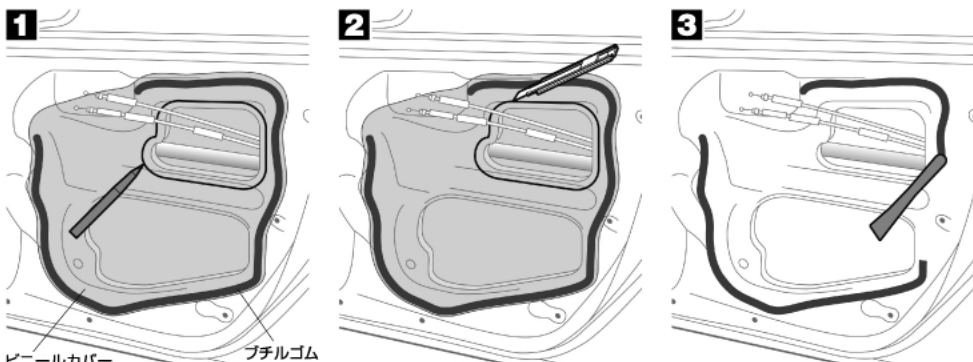
スピーカー・スピーカーマウントを取り外し、接続されているコネクターも外してください。

POINT スピーカーがリベット止めされている場合



⚠ 純正スピーカーをそのまま使用する場合、外したリベットは再使用できません。スピーカーマウントは別売のボルトなどで固定してください

Step3 ドアの前処理をおこなう



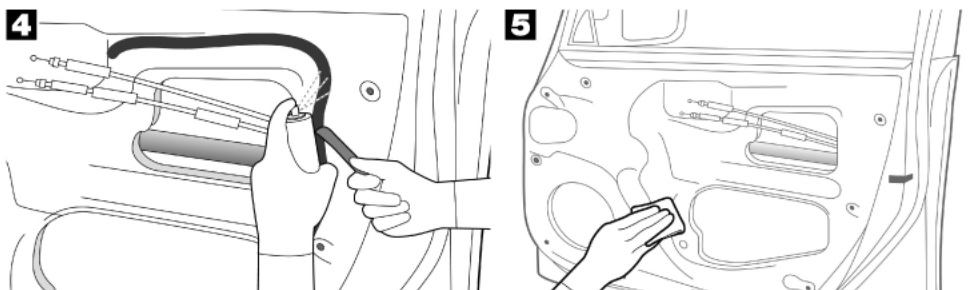
ビニールカバー プチルゴム

純正のビニールカバーに油性のマジックでサービスホールを型取りをしてください。

※型取りはサービスホールより2~3cm程度大きめに印をつけてください。

型取りした箇所をカッターでカットしてください。

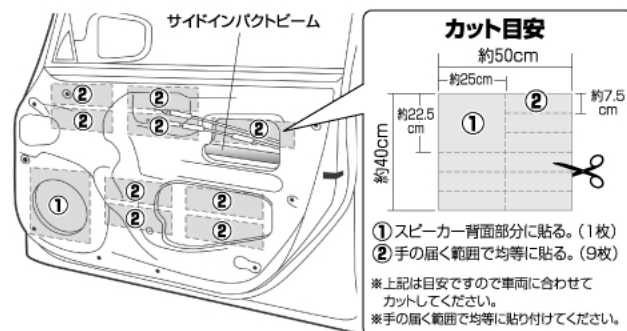
ビニールカバーをゆっくりとプチルゴムと一緒にはがし、残ったプチルゴムは付属のプチルはがし用ヘラを使い大きめに取り除いてください。



残ったプチルゴムは別売のプチルクリーナーキットで取り除くか、別売のプチル処理テープを上から貼ってください。

パーツクリーナーなどを使用しインナーパネル・アウターパネルの油分・水分・汚れを十分にふき取ってください。

Step4 アウターパネル用制振シートを貼り付ける



1 「カット目安」を参考にアウターパネル用制振シート(黒)をカットしてください。

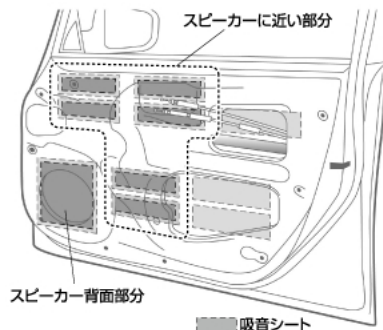
2 カットしたアウターパネル用制振シート(黒)をドアに均等に貼り付けてください。

注意 ●サイドインパクトビームや障害物は避けて貼り付けてください。

3 貼り付けたアウターパネル用制振シート(黒)を付属の制振シート圧着用ヘラでしっかりと圧着してください。

注意 ●高温下や圧着が不十分な場合、制振シートがはがれる可能性があります。付属の制振シート圧着用ヘラで過度の負荷がかからない程度にしっかりと圧着してください。●気温が10℃以下では接着力が低下します。やけどに注意し、ドライヤーなどで粘着面と貼る箇所を温めてください。●パワーウィンドウ・ドアロックなどの機能を妨げるような箇所には貼り付けしないでください。●内張りビニール・ビス固定部などの穴には貼り付けしないでください。●内張りを戻した時に、はみ出さないように貼り付けて下さい。●サービスホール付近の制振シートの圧着は、破れないように注意してください。

Step5 アウターパネル用制振シートの上に吸音シートを貼り付ける

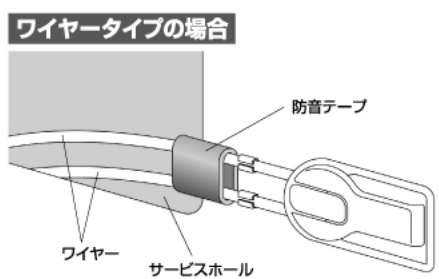


1 吸音シートをスピーカー背面部分に貼ったアウターパネル用制振シート(黒)より少し小さめ(1cm程度)にカットし、スピーカー背面のアウターパネル用制振シート(黒)の上に貼り付けてください。

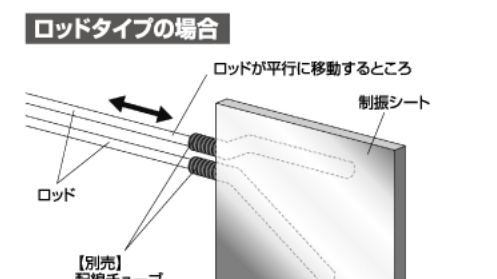
2 残りの吸音シートは、スピーカーに近い位置のアウターパネル用制振シート(黒)の上に貼り付けてください。

注意 ●吸音シートは必ずアウターパネル用制振シートの上からはみ出さないように貼り付けてください。

Step6 ドア開閉金具などの処理をおこなう

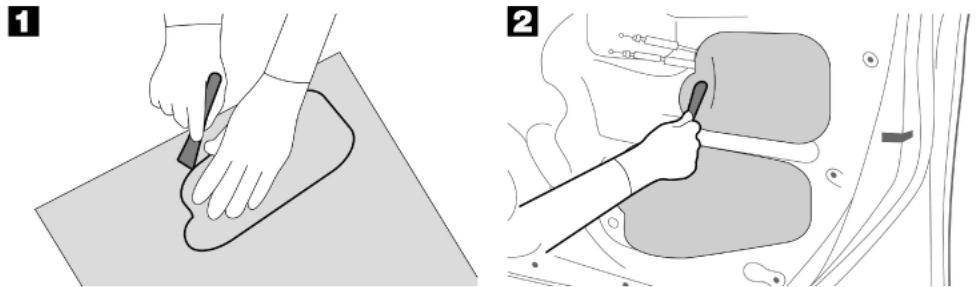


ワイヤータイプの場合
ワイヤーが太くすき間ができる場合は、サービスホールの開口部でワイヤーを傷つけないよう、付属の防音テープをサービスホールとの境に巻き付けます。



ロッドタイプの場合
インナーパネル用制振シートの接着面がロッドにつかないように、別売の配線チューブでロッドを覆います。

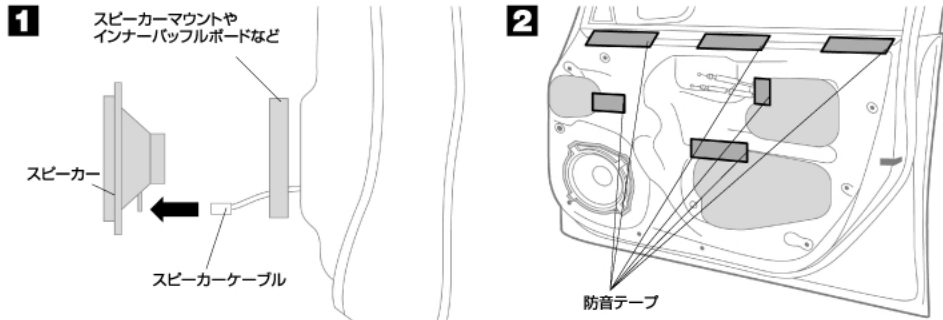
Step7 インナーパネルにインナーパネル用制振シートを貼り付ける



Step3 1 で型取りしたビニールカバーをインナーパネル用制振シート(シルバー)を重ねて、制振シート圧着用ヘラなどでカットする線を写してください。
※助手席側には型取りしたビニールカバーを反転させて利用してください。
※運転席と助手席側でサービスホールの形状が異なる場合があります。

POINT 可動部の処理に注意
ロッドなどの可動部に制振シートの粘着面が干渉すると、可動部の動きを妨げます。可動部に粘着面が干渉する場合は、制振シートを可動部より少し大きくカットし、粘着面同士を合わせて貼り付けて粘着面が干渉しないようにしてください。

Step8 スピーカーを固定し、防音テープを貼り付ける

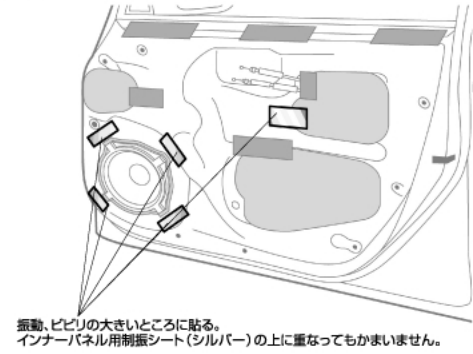


1 スピーカーマウントやインナーパツフルボードなど

2 スピーカーの配線を接続し、スピーカーを固定してください。音漏れ防止のため、ドアレバーやハーネスなどの出口、インナーパネルと内張りが干渉する箇所に付属の防音テープをカットして貼り付けてください。

Step9 ポイント制振材を貼り付け、効果を確認する

ポイント制振材使用例



振動、ビビリの大きいところに貼る。インナーパネル用制振シート(シルバー)の上に重ねてもかまいません。

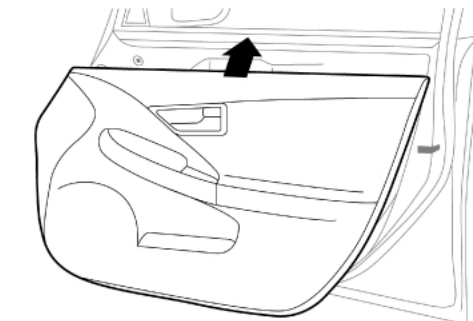
- 1 付属のオリジナルチェックCDのトラック3を再生します。最初に「ビー」という基準信号が再生されますので、音が歪まない程度で大きめのボリュームに調整してください。
- 2 デッドニング効果の確認用テスト信号(トラック4~6)を再生し、振動の大きな箇所にポイント制振材を貼り付けてください。
※「ポイント制振材使用例」を参考にしてください。

POINT

トラック4は共振しやすい低音信号です。各部品やハーネス出口のビビっている箇所にポイント制振材を貼り付けてください。トラック5は振動の大きな低音信号です。施工面全体を手で触り、振動の大きな箇所にポイント制振材を貼り付けてください。トラック6は低音から高音までの連続音です。ドアを開けて再生し、ビビリやノイズの出ている箇所にポイント制振材を貼り付けてください。

- 2でビビリや大きな振動の強弱が確認しにくい場合は、スピーカー周辺に貼り付けてください。
- 車種・インナーパネルの形状によっては振動がおさまらず、ビビリがなくなる場合もあります。

Step10 内張りを取り付け、作業終了



- 1 開閉ワイヤー・カブラーなどを正しく取り付け、内張りピンの位置をあわせて内張りを取り付けてください。
- 2 外したネジ・パネルなどを取り付けてください。
- 3 作業終了後、パワーウィンドウや電装品などの各機能が正常に作動するか確認してください。

オリジナルチェックCD使用手順

スピーカーを取り付け、内張りを戻す前の状態でドアを開けてチェックCDを再生します。音の確認は片側ずつおこないますので、インナーパネルの正面で施工面全体の音を確認してください。左右のドアで同じ作業をおこないます。

- ※チェックCDの再生時、まず音量調整をおこないます。必ずトラック1から再生し、スピーカーの音が歪まない音量で使用してください。スピーカーの音が歪んだ状態で再生を続けると機器の破損につながりますので注意してください。ボリュームの上げすぎによるスピーカーの損傷については当社は一切責任を負いません。
- ※トラック4~6は再生しながらゆっくりボリュームを上げて、スピーカーの音が歪まない範囲で、再生可能なできるだけ大きなボリュームに調整してください。
- ※トラック7以降のテスト音源は音質チェックや接続チェックなどに使用できます。

| オリジナルチェックCD内容 | | | 解説・用途説明 |
|---------------|---------------------------|-------|---|
| トラック内容 | | | |
| トラック1 | オープニング | 0:38 | |
| トラック3 | 基準信号 1kHz (-10dB) | 0:25 | |
| トラック4 | デッドニング効果確認信号 | 2:05 | 共振しやすい低音信号です。各部品やハーネス出口のビビリがないかチェックしてください。ビビっている箇所があれば付属のポイント制振材を貼り付けてください。 |
| トラック5 | デッドニング効果確認信号 | 2:06 | 振動の大きな低音信号です。施工面全体を手でさわリ、振動の大きな箇所があれば付属のポイント制振材を貼り付けてください。インナーパネル用制振シートの上に貼ってもかまいません。 |
| トラック6 | スイープ信号 20Hz~20kHz (-10dB) | 1:02 | 低音から高音につながるスイープ信号です。インナーパネルの振動チェック後、ドアを開けて再生し、ビビリがないかチェックしてください。 |
| トラック7 | STYLE ドラムソコ | 4:17 | さまざまな楽器のサンプル音源です。音の響きや音色、音の広がり・歪み感などのチェックに利用してください。 |
| トラック8 | HOROSCOPE ピアノソコ | 4:07 | |
| トラック9 | Moving now サックス | 3:02 | |
| トラック11 | 音楽信号L(左)チャンネル | 0:36 | システム接続チェック信号です。左右のスピーカーが正しく接続されているか確認します。ナレーションにしたがい配線の接続状態をチェックしてください。オーディオユニットの交換時などの接続チェックにも利用できます。 |
| トラック12 | 音楽信号R(右)チャンネル | 0:36 | |
| トラック14 | 音楽信号L(左)チャンネル | 0:38 | |
| トラック15 | 音楽信号R(右)チャンネル | 0:40 | |
| トラック17 | 音楽信号L+R(正相) | 0:50 | スピーカーの極性チェックをおこないます。左右でプラス・マイナスが逆になっていると音像がぼやけ、低域の重感も不足し、不快な音になります。スピーカーケーブルの交換時などプラス・マイナスが正しく接続されているか確認のため、利用してください。 |
| トラック18 | 音楽信号L+R(逆相) | 1:11 | |
| トラック20 | 1kHz (-10dB) L+R | 0:26 | 基準信号 |
| トラック21 | 20Hz (-10dB) L+R | 0:26 | 超低音域で、主にサブウーハーで再生する帯域となり、音の圧力を体で感じる音域。 |
| トラック22 | 25Hz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック23 | 31.5Hz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック24 | 40Hz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック25 | 50Hz (-10dB) L+R | 0:26 | 一般的に重低音と呼ばれる、音楽の土台となる帯域。レベルを上げすぎると歪みの原因になります。 |
| トラック26 | 63Hz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック27 | 80Hz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック28 | 100Hz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック29 | 125Hz (-10dB) L+R | 0:27 | ベース・ドラムなどの低音域が中心となる帯域。客室の低音も含まれます。 |
| トラック30 | 160Hz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック31 | 200Hz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック32 | 250Hz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック33 | 315Hz (-10dB) L+R | 0:26 | ほとんどの楽器音、ボーカルが密集する中心的な音域。再生音のバランスを決める重要なポイントになります。 |
| トラック34 | 400Hz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック35 | 500Hz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック36 | 630Hz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック37 | 800Hz (-10dB) L+R | 0:26 | 音の響き、余韻感を表現する帯域。シンバルの響きなど繊細な音の表現を左右する音域です。 |
| トラック38 | 1kHz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック39 | 1.25kHz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック40 | 1.6kHz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック41 | 2kHz (-10dB) L+R | 0:26 | 人間の耳が最も敏感に感じ取る帯域で、音の変化がわかりやすき定位感、音重感を決めるポイントになります。音の透明感もこの帯域に含まれます。 |
| トラック42 | 2.5kHz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック43 | 3.15kHz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック44 | 4kHz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック45 | 5kHz (-10dB) L+R | 0:26 | 音の響き、余韻感を表現する帯域。シンバルの響きなど繊細な音の表現を左右する音域です。 |
| トラック46 | 6.3Hz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック47 | 8kHz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック48 | 10kHz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック49 | 12.5kHz (-10dB) L+R | 0:26 | 音の響き、余韻感を表現する帯域。シンバルの響きなど繊細な音の表現を左右する音域です。 |
| トラック50 | 16kHz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック51 | 20kHz (-10dB) L+R | 0:26 | |
| トラック52 | 無音信号 | 2:42 | |
| トラック53 | エンディング | 0:38 | |
| | トータル | 41:46 | |